

第2回印西市部活動地域移行推進協議会 議事録

日時：令和7年11月18日（火）

13：30～14：54

場所：市役所41会議室

《出席委員》 敬称略

青木 和浩	磯 昌稔	飯野 晋二	篠原 雅文	荻原 健一
渡辺 敏雄	高平 光重	川嶋 将行	伊藤 章	中嶋 広

《出席事務局職員》

印西市教育委員会指導課	課 長	岡田 光靖
印西市教育委員会指導課	指導主事	山崎 智貴
印西市教育委員会指導課	指導主事	中島 友弘

《傍聴者》

なし

《次第》

- 1 開会
- 2 会長挨拶
- 3 報告事項
 - (1) 部活動地域移行リーフレットについて
 - (2) 印西NEXUS活動状況
- 4 協議事項
 - (1) 実態調査アンケートの実施について（検討中のため非公開）
 - (2) 今後の事務局のスケジュール
- 5 その他
- 6 閉会

【議事要旨】

1 開会

(司会)

ただいまより令和7年度第2回印西市部活動地域移行推進協議会を開会いたします。

議事に入る前に申し上げます。当協議会は、印西市市民参加条例第11条4項の規定に基づき、会議公開に伴う傍聴席の開設と、傍聴席の設置と、会議録作成のため録音機材を設置して録音させていただきます。現在、傍聴人はおりません。

2 会長挨拶

(司会)

次第2、会長挨拶、会長お願いします。

(会長)

この「地域移行」という言葉も古いワードになり、世の中では「地域展開」という言葉がだいぶ浸透してきております。10月には、国からガイドラインが示されまして、12月頃にはそのガイドラインが発表される見込みになっております。

国のガイドラインでは、大きく2つのポイントを挙げています。1つ目はかなり市町村に委ねられる部分が大きいということ、2つ目がクラブの認定についてです。国の示す要件を満たしている認定制度を設けクラブの適正化を図っていくことがガイドラインで示される予定になっております。国、県、市が一体になって進めなければならない事業ですが、なかなかそれも進められていない状況です。課題山積の中、事務局が推進していけるようご意見をいただけたらと思います。

3 報告事項

(司会)

次第3、事務局より報告事項を説明させていただきます。

(事務局)

資料1頁に11月4日付けで配付した部活動地域移行リーフレットvol.9を記載しましたのでご覧ください。9月からスタートした印西NEXUSの活動や大会の成績を掲載しています。このリーフレットを学校に配付し教室に掲示、子どもたちには一人一台端末で共有、保護者にはお手紙配信ツールで送付、市のHPにも公開しております。

(司会)

報告事項(1)にご質問、ご発言のある委員はいらっしゃいますか。

次に、報告事項(2)印西NEXUS活動状況について、事務局からご説明いたします。

（事務局）

9月6日（土）より、印西市部活動地域移行の野球3クラブ、女子バレー6クラブの合計9クラブでモデル事業をスタートしました。リーフレットでも紹介しましたが、野球は、印西NEXUS船穂クラブが印旛支部新人戦を優勝し県大会に進出しました。女子バレーボールでは、印西NEXUS木刈クラブが印旛支部新人戦3位入賞し県大会に出場しました。活動状況の詳細につきましては、事業者から報告していただきます。

（事業者）

まず活動概要から報告させていただきます。バレーボールクラブの参加人数についてです。部活動所属人数のうち、約86%が印西NEXUSに参加をしています。中には、平日の部活動には所属せず、印西NEXUSに参加している生徒も複数名います。女子バレーボールについては地域クラブとして大会に参加をしていますので、自分の所属する学校の拠点以外の拠点への参加も可能としております。現時点では、6拠点中2拠点で所属校以外の生徒の参加が実現しております。続いて、野球クラブの参加人数についてです。こちら、部活動所属生のうち約88%の生徒が印西NEXUSに参加をしています。市内で唯一野球部の設置がない小林中学校の生徒も印西NEXUSに参加しています。印西NEXUSが稼働し、どの拠点も大きな問題もなく開始できているような状況になっております。

次に、活動の様子についてご報告をさせていただきます。9月6日の土曜日から印西NEXUSの活動を開始しました。市教育委員会と事業者ですべての女子バレークラブを巡回視察いたしました。6クラブ中3クラブは、兼職兼業の教職員ではない地域の指導者のみでクラブを指導しています。また、3クラブの兼職兼業の教職員が指導するクラブには、順天堂大学の女子バレーボール部の学生に指導のサポートに関わっていただいています。男性顧問のみだったところに、女子大生がサポートに入ってくれていて、生徒にとっても年が近くて同性でバレーボールが上手なお姉さんのような立場として良い関わりをして指導してくれています。良い雰囲気練習が進み、地域移行だからこそその効果が出ている事例として考えられます。次年度、種目数が増えますが、引き続き順天堂大学と連携を図り、多くの学生さんにご協力をいただきたいと思います。新たな事業ということで、野球、女子バレーボールともに新たに印西NEXUSのユニフォームを作成し、拠点ごとに色違いの新たなユニフォームの袖に腕を通して、大会に参加しました。このユニフォームの“NEXUS”という言葉は結びつきや連携の意味を表現しています。

大会参加について、野球は拠点校部活動という方式で新人戦に参加しました。初戦から滝野中拠点と船穂中拠点での対戦になりました。県大会出場を懸けた決勝戦では、船穂中拠点と印西中拠点での対戦になり、最終的には、船穂中拠点が優勝し、県大会進出を決めました。

続いて、女子バレーボールについても、新人戦のシード選考を兼ねた強化練習大会に参加をし、地域指導者が引率したクラブも含め、しっかりと指導者の指示を受けながら生徒が躍動す

る姿が見られました。6クラブ中4クラブがシード権を獲得することができました。新人戦の本線では、印西NEXUS木刈クラブが3位入賞し、県大会への出場を決めました。

印西市の部活動地域移行の取り組みの中で、他の自治体と大きく違うのが、生徒のニーズに応じて自由にクラブの参加種目、拠点を選択できることです。実際に2つの事例を紹介しますと、1つは、平日の所属している部活動とは違う拠点のクラブに参加できることです。所属する部活動では部員数が多く、なかなか練習環境や試合出場の機会を得ることができない生徒が、出場機会を求めて拠点を変更し新人戦から大会への出場を果たしました。保護者からも喜びの声をいただいています。2つ目の事例としまして、平日の部活動に所属をしていない生徒が印西NEXUSのみ参加をしているという事例もあります。様々な事情で部活動を辞めてしまったり、そもそも自分の所属する学校に部活動の設置がなく取り組むことができなかったりする生徒たちが、自分の取り組みたい種目のクラブに参加し活動することができています。このようなケースのように、部活動地域移行だからこそ部活動にはない新たな形のスポーツや文化芸術の関わり方を提示できているのではないかと感じております。

最後に、今後の印西NEXUSの取り組みについてお伝えします。1つ目は協議事項の議題にも挙げておりますが、地域移行の事業についての事業満足度の調査を行いたいと思っております。2つ目は、令和8年度の本格実施に向けた指導者採用をスタートしております。次年度9月より60クラブを追加しますので、兼職兼業を希望する教職員を調査するとともに地域の指導者採用と配置を行っていきます。

(司会)

報告事項(2) 印西NEXUSの活動状況についてご意見ある方いらっしゃいますか。

(委員)

兼職兼業を希望する教職員の実態把握をするとのことですが、再任用で採用されている教職員や65歳くらいの教職員OBは指導者として参加してくれる方はけっこういるのではないかと感じています。

(委員)

先生方はこの地域クラブを指導したら報酬は出るのですか。

(事務局)

土日指導したい先生方には、教育委員会に兼職兼業願いを提出していただき特別に許可を得た教職員が報酬を得ながらスポーツや文化芸術を指導することができます。

(委員)

資料から見ると、クラブごとの練習回数に差があるのはどうしてですか。

(委員)

大会前のため、練習試合の実施等によっては回数に差が出てきているのではないかと思います。

(事業者)

大会前ということもあり、9月以前から練習試合を組んでいたケースもあるようです。大会が終わりましたら、月5回程度の活動を設定していく予定です。

(委員)

費用負担部分は大丈夫なのでしょうか。

(事務局)

予算上では、年間40回～60回の練習を想定しています。大会に勝ち残っていけば稼働数は多くなります。しかし予算は無限ではありませんので、月5回程度でコントロールしないと運営費が枯渇してしまいます。指導者にも周知を図りながら練習回数を印西NEXUS事務局で管理していきます。

(委員)

データとスライドの因果関係が繋がっていない部分があるのでリンクする形で提示していただけると助かります。

(事業者)

次回から、確認して提示していきます。

(委員)

当初から指導者の確保と送迎の問題が話題に挙がっていましたが、実際に稼働して、保護者の送迎についての問合せ等があったのか教えていただきたい。

(事務局)

現段階では、女子バレーボール部のあった学校に拠点を置いているので大きな問題にはなっていないと思います。野球も地域移行する前も合同部活動のような形で稼働していたため、大きな変化はないので問題ありません。送迎についての直接の意見も受けておりません。実際には、連絡がないだけで送迎の負担を感じている人はいるのかなと思っています。

(委員)

資料には好事例ということでメリットが提示されていますが、逆にデメリットは把握しているのでしょうか。

(事務局)

兼職兼業の教職員が印西NEXUSの指導時に身分が曖昧なまま指導していることです。大きな問題になっていませんが、顧問という立場のまま印西NEXUSで指導してしまっている例はありました。平日は部活動の顧問、休日は印西NEXUSの指導者という棲み分けが浸透するまでに時間がかかりますが、立場の区別やそのあたりを考慮した立ち振る舞いは今後重要になってくると思います。

(事業者)

地域クラブとしての大会参加という点が大きな課題です。女子バレーボールで印西NEXU

Sとして大会参加することは全国的に見ても先進的な取組で大きな一歩でした。やはり苦勞したのが千葉県小中体連との連携や各競技専門部や各協会との連携です。正直な話、野球もバレーボールもなんとか大会参加に間に合ったという状況です。次年度になると他の種目も発生しますので早めに動かないといけないと感じていますし、漏れ落ちのないように準備していかなければ子どもたちに不利益を与える形になってしまうと感じています。

(委員)

これから生徒指導の連携が課題になるかと思います。学校で起こっていること、クラブで起こっていることがあると思いますが、兼職兼業の教職員ではない指導者がどこまで生徒指導をすれば良いのかわからずトラブルになる可能性は想定されます。

(事業者)

委員のおっしゃるとおり、起こりうる可能性はあります。事業者として業務日報レポートを確認し漏れ落ちなくやっていくつもりでいます。必要なものがあれば学校とも情報共有させていただき対処していきます。教員ではない地域の指導者が子どもたちの関係を構築すると、地域で子どもたちを育てるという理念に近づくとも考えます。長い目で取り組んでいきます。

(委員)

およそ3か月稼働していますが、大きなケガや事故について報告は挙がっていますか。もしあれば、どのような対応をしたのか教えてください。

(事業者)

1件、野球のキャッチャーの指の怪我の報告を受けています。スポーツ安全保険に加入していますので家庭で手続きをしてもらう形です。

(委員)

家庭との意思疎通が後手に回ると話がかみ合わないことも出てきますので、十分注意をして対応していただければと思います。

(委員)

学校管理下だと日本スポーツ振興センターになりますし、地域クラブだとスポーツ安全保険になります。子どもたちも保護者もですが、養護教諭や顧問の先生もしっかり区別して申請しないと間違った申請や保険の二重取りなども起こる可能性があります。

(事業者)

保険の区別がつくよう案内していきたいと思います。

(委員)

資料の中には課題の記載がないのですが、課題はないのですか。

(事業者)

次の第3回の協議会の中で、アンケート結果をふまえた課題抽出をお示ししていこうと考えています。

(司会)

報告事項をここまでにさせていただきます。

4 協議事項

(司会)

次第4、協議事項に入らせていただきますが、当協議会設置要綱第7条1項の規定により、議長は会長が務めることになっております。ここからの協議事項については会長に進行していただきます。どうぞよろしくお願いします。

(会長)

ここからは、私の方で議事を進行して参ります。

初めに、本日の協議会議事録署名人を飯野委員と川嶋委員にお願いします。

<委員承諾>

では、協議事項(1)、実態調査アンケートの実施について、事務局からお願いします。

(事務局)

地域クラブが稼働しておよそ3か月が経過しました。地域クラブの検証分析のためにも、次年度の地域クラブの設置のためにも、地域クラブに関わるデータが必要なことからアンケートの実施を考えております。

アンケート項目の検討のため非公開

(会長)

印西NEXUSの参加生徒約200名、その保護者約200名を対象とする。印西NEXUSの指導者対象は約20名、休日をとれるようになった顧問の先生と管理職の先生対象ですね。それ以外にアンケートを実施した方が良い属性や質問事項等あればご意見をお願いします。

(委員)

部活動所属の生徒の中で地域クラブの参加を見合わせた生徒の意見を拾わなくてよいのかと思います。拾わない理由等あれば教えてください。

(事業者)

今回は、地域クラブ参加率を高める要素というより、印西NEXUSに参加している方の実態調査をメインにしています。

(会長)

試合に出たいか出たくないかという意向が強い感じを受けます。他にも、習い事や他のクラブチームに参加している生徒は印西NEXUSには登録しません。

(事業者)

登録参加時には、家庭の事情で参加しないという話を聞いた例はありました。

(委員)

このアンケートについては、仮説を立てているのでしょうか。

(事業者)

運営する上で押さえておきたい情報を確認する質問にしています。仮説を明確に持っているかということはありません。初の実態アンケートなので、ご指摘をいただいたとおり仮説を立ててアンケート内容を検討します。

(委員)

しっかり仮説を立てて、質問内容を整理してアンケートをとったほうが、効果的な結果を得ることができるのではないかと考えます。

(委員)

受益者負担3000円相当とアンケートに書いてあるが、3000円でクラブを実施できるのか。

(事務局)

この3000円の受益者負担の額は、あくまでもこの部活動地域移行の事業費の一部を補填するものになっています。具体的には、生徒に対しての保険代や指導者への謝金に充当する予定です。それ以外の事務局費やクラブ運営費、消耗品等の費用は市費で負担する形です。上限額を3000円として設定しており、企業版ふるさと納税やクラウドファンディングなど民間の支援を受けて家庭の負担を軽減していくことも視野に入れております。

(会長)

この3000円の根拠はどこから来ているのですか。

(事務局)

受益者負担の金額についての指針はまだ国から出ていません。この額については、予算計上した時に、全70クラブの2人に指導者に指定した練習数と大会引率数を計上し、その額を想定される地域クラブ登録者で割った数字を受益者負担額として設定しています。

(会長)

なかなか受益者負担の額を公表していない自治体が多いです。やはり、金額ありきの説明では保護者が納得しないという思いを受けているようです。

(事業者)

「3000円もかかる」のか「3000円でできる」のかは説明会の説明の仕方を工夫しな

いと間違った意識づけになってしまうので、今後の資金調達の方法等も紹介した上で理解を求めるのが良いのではないかと考えています。

(委員)

今までは、部活動補助金で交通費等の補助がありましたが、今後はどうになってしまうのでしょうか。休日の活動は印西NEXUSの活動なので学校からの申請ではなくなると思いますが、印西NEXUSにも補助されるのでしょうか。

(事務局)

すぐに回答はできませんが、部活動補助金の在り方については今後検討しなければならないと考えております。

(委員)

大会参加費等も今まで学校で支払っていましたが、今後は学校から支払わなくなります。その部分については保護者から徴収する仕組みになると思います。あくまでも受益者負担の3000円のうちほとんどは指導者の謝金に充当すると思います。

(事務局)

受益者負担については、今までの部活動も生徒会費やPTA会費など保護者から徴収していたお金を各部活動に配分していました。県の担当者からも、地域移行だけが受益者負担が発生しているという誤解がないよう丁寧に説明してほしいとお話がありました。

(委員)

地域クラブで受益者負担があるのであれば、生徒会費やPTA会費の部活動に割かれていた部分は軽減されるようにしていただきたいです。

(事務局)

学校徴収金も見直ししないといけないと思います。

(委員)

PTAの存続について検討されています。PTAの離脱をした場合、PTA会費というものがなくなる可能性もあります。

(委員)

PTA会費の額については、教頭先生にも伝えて次年度予算計上を考えないと、例年どおりの徴収になってしまうかもしれないので、学校徴収金の部活動費を縮小するのであれば教頭先生にしっかり伝えてPTAと協議してもらったほうが良さそうです。

(会長)

印西市にはわかりやすいリーフレットがありますので、保険の申請や受益者負担のことなどについても周知することは大切かもしれません。各中学校の管理職の先生はこの事業についてよくわかっているのですか。

(委員)

私はこの協議会に参加しているからなんとなくはわかっていますが、あまりわかっていない方が多いのでアンケート回答できない方もいると思います。

(会長)

どの分野でも関わっている方がいれば、率直に輸入していただくのが良いと思います。

(委員)

グラウンドや体育館は練習会場として提供できますが、吹奏楽や卓球など校舎内で活動している種目については鍵の管理等は課題があります。

(会長)

北総のコーディネーターも吹奏楽は難しいと言っていました。

(事務局)

吹奏楽については、スポーツ種目とはタイプが違う課題がありますので、実際に顧問の先生方を回って現状や地域クラブの在り方についてヒアリングをしていきます。

(会長)

アンケートの内容もですが、いろいろな視点で地域クラブの課題が挙がりましたので。それを事務局の方で検討していただいて実施していただく形でよろしいですか。

<委員承諾>

続きまして、協議事項（２）今後の事務局のスケジュールについて、事務局お願いします。

(事務局)

資料３頁をご覧ください。今年度の千葉県地域クラブ体制整備事業の委託の報告書や次年度の県の事業の申請を確実に進める中で、大会主催者である小中体連の各専門部長を中心に大会参加の細則について協議を進めます。特に地域クラブでは参加を認められていない種目については丁寧に確認作業を進めていきます。また、各顧問の先生方のヒアリングを行うとともに、指導者登録をお願いします。次年度も今年度同様に、全体説明会を実施する予定であります。様々な準備がありますが抜けがないように丁寧に進めていきたいと思います。新たな課題等も出てくると思いますので、アンケート結果とともに次の第３回協議会でご助言いただきたく思っております。

(会長)

このスケジュールについて何かご質問ありますか。

(会長)

推進計画を県に提出すると思いますので、推進計画（案）を作成していただき協議会で確認しましょう。校長会の助言で野球と女子バレーボールからスタートし良い滑り出しをしています。次年度他の種目や吹奏楽ということもあり、ハードルが上がりますので、しっかり準備し

ていってください。他の自治体からも印西市の地域移行が注目されています。それも含めて丁寧に準備してほしいと思います。

(事務局)

印西市では、今まで部活動地域「移行」という形で周知してきました。次年度からは国も県も部活動地域「展開」と呼ぶようになっております。印西市も次年度から地域「展開」という形で進めてよろしいでしょうか。

(会長)

冒頭の会長挨拶で触れてしまいましたが、スポーツ庁・文化庁のガイドラインが改訂する予定になっております。それを受け千葉県でも指針が出ると思います。その指針に沿って印西市でも準備していくことになると思います。大切なのは、この協議会でも何度もテーマに掲げられていますが、子どもたちに不利益のないようにという視点で進めていってもらえればと思っています。

(委員)

現在は、モデル事業として、学校の備品や用具を使用していますが、今後平日の部活動が縮小され、学校で備品や用具も購入しなくなると、将来的には地域クラブ事務局に大きな予算が必要になります。受益者負担3000円で地域クラブ運営が本当に賄えるのかどうかという視点は持って臨まないとい今後難しいことも出てくると思います。

(事務局)

実際に、野球と女子バレーボールだけでさえ、想定していたものより多くの予算が必要だということを実感しました。やってみないとわからない課題もありますし、様々な視点でモデル事業として検証分析していきたいと思います。

(会長)

課題は次々と出てきますね。では、事務局にお戻しします。

5 その他

(司会)

次第5その他、事務局から連絡がございます。

(事務局)

天台の千葉県スポーツセンターで県の担当者会議が開催されます。そこで得た情報は第3回の協議会で情報共有します。

6 閉会

(司会)

第2回印西市部活動地域移行推進協議会を閉じます。どうもありがとうございました。

令和7年度第2回印西市部活動地域移行推進協議会会議録は、事実と相違ないことを承認する。

令和7年12月16日

委員 飯野 晋二

委員 川嶋 将行